

CASBEE® 名古屋

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価指針2016年版、名古屋市環境総合性能評価マニュアル2016

評価結果

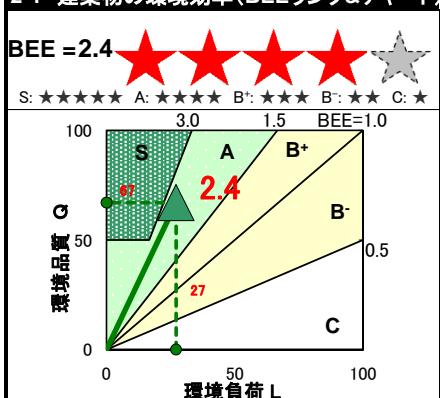
使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | |
|----------|-----------------------------------|
| 建物名称 | (仮称)錦2丁目オフィスPJ |
| 建設地 | 名古屋市中区錦二丁目316-2,323,324,325,326-1 |
| 用途地域 | 商業地域、防火地域 |
| 地域区分 | 6地域 |
| 建物用途 | 事務所、物販店、工場、 |
| 竣工年 | 2028年7月 予定 |
| 敷地面積 | 2,840 m ² |
| 建築面積 | 1,925 m ² |
| 延床面積 | 24,002 m ² |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価指針2016年版、名古屋市環境総合性能評価マニュアル2016

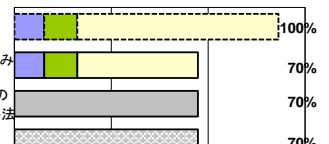


2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

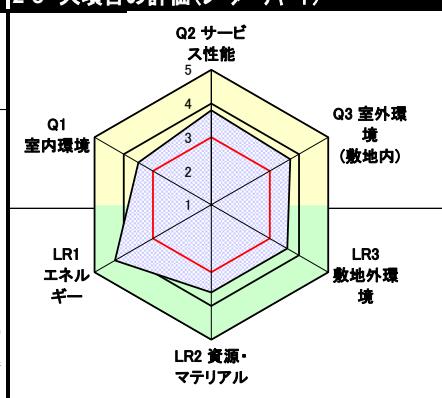


30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



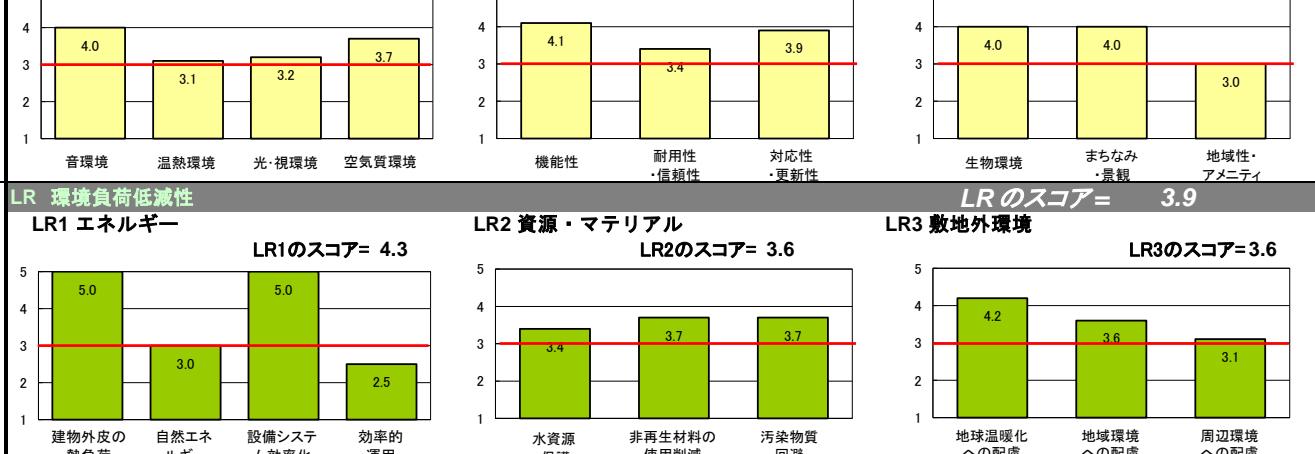
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



LR 環境負荷低減性



3 設計上の配慮事項

総合

地域つながり、街に開かれたオフィスビルを創造し、錦2丁目のエリア価値向上を図る設計とした。また環境と災害時に配慮した持続可能な計画を行ない、有事の際にも安心なBCP対応として、自家発電機を備え、72時間、貸室内にも電源を供給可能。14階には防災倉庫を設け、防災用資材を備蓄し災害に備える。

その他

特に無し

Q1 室内環境

執務者が快適に過ごせるよう騒音・遮音(吸音)・照度・空気質に配慮した環境計画を行なっている

Q2 サービス性能

執務室は床荷重4900N/m²かつ高負荷対応が可能な計画としており、また法令水準以上の非常用発電設備があり、建物の基幹機能や共有部におけるサービスが可能であり、専有部に対しても一部の電力供給が可能である

Q3 室外環境(敷地内)

敷地内および建物外壁面に植栽を設け、良好な景観を形成している

LR1 エネルギー

省エネ計算結果 BPI=0.80、BEI=0.60

LR2 資源・マテリアル

リサイクル材の積極利用や再利用可能な建材の使用、また節水・省水型機器の採用による省資源へ寄与している

LR3 敷地外環境

適切な量の駐車・駐輪スペースを確保し、敷地周辺に渋滞が発生しないよう配慮した計画としている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)錦2丁目オフィスPJ

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | 評価 | 全体に対する重み係数 | 重点項目スコア |
|-------------------------|-----|-------------|------------|
| 1. 温暖化対策 | | | 4.2 |
| LR1 エネルギー | 4.3 | 0.4 | |
| LR3.1 地球温暖化への配慮 | 4.2 | 0.1 | |
| LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善 | 3.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | 3.5 |
| Q3.1 生物環境の保全と創出 | 4.0 | 0.090773188 | |
| Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上 | 無 | 0.009077319 | |
| Q3.2 まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045386594 | |
| 3. 循環型社会 | | | 3.6 |
| LR2.1 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 非再生性資源の使用量削減 | 3.7 | 0.18 | |
| LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 3.0 | 0.01875 | |

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 3.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。